

国連世界観光機関(UNWTO)アジア太平洋センター
奈良移転記念講演会を開催しました。

2013年1月

国連世界観光機関(UNWTO)アジア太平洋センター

昨年12月13日(木)14:30～16:30、奈良県新公会堂能楽ホールにおいて、当事務所の奈良移転を記念して「アジア太平洋地域における観光交流の一層の促進を目指して」のテーマで講演会(外務省・観光庁・奈良県・奈良市後援)を開催致しました。

当センターは UNWTO(本部 マドリッド)唯一の地域事務所であり、1995 年に関西で2番目(19番目)の国際機関として大阪に開設され、これまでアジア太平洋地域における国際観光交流を通じた国家間の相互理解、経済発展等に資するための国際会議開催、教育訓練セミナー実施、観光統計事業等に取り組んできました。

今回の奈良への移転は、今後の活動の主軸であるアジア太平洋地域の大交流を目指す「海のシルクロード」プロジェクトの拠点として奈良が相応しいとの考えから、奈良県・市のご支援により実現しました。

講演会では冒頭、浅沼唯明^{ただあき}UNWTO アジア太平洋センター代表が「奈良はシルクロードの終着点と言われている。海のシルクロードプロジェクトに取り組むのに地の利を得た場所である。」と開会挨拶。

奈良県知事代理の久保田幸治観光局長が「UN(国連)の名称のついた機関を誘致できる事は身の震える思いで、奈良県民あげて喜んでいる。センターの誘致は意義があり、東アジアの観光が今後伸びて行く中で事務所を構えていただくことは大歓迎である。今後、奈良がこの恩恵を発揮できるように共に頑張っていきたい。」と述べ、センターの奈良移転を歓迎するとともに今後の一層の活躍に期待を示しました。同じく挨拶に立った井手憲文観光庁長官は「今回奈良に移転したアジア太平洋センターには、現在「海のシルクロード事業」を中心に取り組んで頂いている。シルクロードの東のターミナルである奈良への移転を契機に、アジア太平洋域内各国の観光交流の拠点としてさらに活動に取り組んで頂くことを強く期待する。観光庁としても、引き続きUNWTOアジア太平洋センター及びUNWTO本部との協力関係を密にしていきたい。」と述べました。

続いて小島誠二外務省特命全権大使(関西担当)は「アジア・太平洋地域では観光が大変な勢いで発展、拡大している。観光客は多様で観光は持つ意味が深いもの。観光の発展というものを政府としても、UNWTO としても力を入れてほしい。観光発展

のためにアジア太平洋センターが大きな役割を果たすことを祈っている。」と述べました。

講演会には、UNWTO 本部(在マドリッド)から来日したゾルタン・ソモギ上級部長が「アジア太平洋における調和された地域協力の必要性」について講演を行い、同13日が国際観光客到着数10億人達成デーであり、UNWTO として特記すべき日であり、1年間での国際観光収入が1兆米ドルにのぼることを例にあげ、観光が経済に貢献している現状を説明しました。

続いて、石森秀三北海道大学観光学高等研究センター長が「東アジア観光共同体のすすめ」をテーマに東アジアにおける国々が観光を通じて協力体制を築くべきであると話しました。

226名の参加者はそれぞれ興味深い講演に熱心に耳を傾け、メモを取るなどしていました。

閉会にあたり、仲川げん奈良市長から「特に東アジア地域においては、領土問題の成り行き等が懸念されているが、トラブルをトラベルに変えてソフトパワーでいい方向に解決したい。奈良の街は1300年前に色々な国から生活様式やそれぞれ国々の制度を借りて文化の礎を作ってきた。考え方の違いや宗教の違いを豊かさにとらえてお互いに尊重する国を作ってゆく。その為の大きなきっかけとしても観光は改めて重要である。奈良に UNWTO の拠点が来たが、奈良だけでなく、アジア・太平洋の観光産業の発展、また観光産業を通じた平和の創造に最大限の力を注ぎたいと思う。」と締め括りました。

この講演を聴講された多くの方々に、アジアにおける観光をテーマとする結束の必要性及び観光産業の重要性について理解を深めて頂きました。当センターのメインテーマである「海のシルクロード」にゆかりの深い奈良に移転したことを契機に、各関係機関、自治体等の皆様とも連携を取りながら、成長が目覚ましいアジア太平洋地域の国際観光の発展と国際交流の推進を目指したいと考えています。